

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2019年12月5日付

坡州市（パジュシ）民間制限線内の野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出
（野生いのしし 38 例目）

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbwFmcmElMkY2OCUyRjMyMjIwNiUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJTl2cmdzRW5kZGVtdHlIM0QlMjZwYWdlJTNEMSUyNmJic09wZW5XcmRTZXE1M0QlMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnNyY2hXcmQlM0QlMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnNyY2hDb2x1bW4lM0QlMjZyb3clM0QxMCUyNg%3D%3D>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)坡州(パジュ)市津東面(チンドンミョン)で発見された野生いのしし弊死体から ASF ウイルスが検出されたと12月5日明らかにした。

○弊死体は12月4日感染・危険地域を遮断している坡州(パジュ)2次フェンス内農耕地で官軍合同弊死体精密捜索中発見された。坡州市(パジュシ)は ASF 標準の行動指針により試料を採取して現場の消毒と弊死体の埋却措置をとった。

○国立環境科学院は12月5日、弊死体試料で ASF ウイルス陽性確定診断の結果を関係機関に通知した。坡州(パジュ)ではこれで15例目の野生いのしし ASF 陽性の確定診断となり、全国的には38件に増えた。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は“弊死体の迅速な捜索と除去はウイルス伝播を効率的に防止する措置だ”として、“フェンス内で感染した弊死体の捜索を徹底する”と話した。

(以上)